

子どものコロナワクチンについて

3月から5～11才のお子さんに対してコロナワクチンの接種が始まります。成人用に比べ1/3に減量されており副反応も成人に比べて頻度が低いことが報告されています。（ごく稀に軽い心筋炎を起こすことがあります）現在はオミクロン株が流行しており子どもの感染も非常に増えているため今後小児でも中等症や重症例が増えることも予想されます。2才未満や基礎疾患のある小児では重症化リスクが増大することも報告されています。日本では10才未満での死亡例は報告されていませんが米国では1000人近い子どもが亡くなっています。ワクチンの感染を予防する効果は低くなっていますが発症しても重症化を予防する効果は依然高いことが報告されています。

コロナに感染し軽症で済んだ場合でも後遺症に悩む可能性もあります。同居する家族や友達に感染を広げる可能性もあります。ワクチンをすることで感染したとしても他の人に感染を広げにくくしたり、後遺症で悩む頻度を減らす効果は期待できると思います。また接種による副反応を過度に心配する必要もないと思います。



小児を対象とした新型コロナワクチンの諸外国の状況

2. 本日の論点：〔2〕小児（5-11歳）の新型コロナワクチンの接種について
（1）諸外国の対応状況
小児を対象とした新型コロナワクチンの諸外国の状況

2021年12月20日時点

5-11歳の小児に対するファイザー社ワクチンについて、米国、カナダ、イスラエルでは全ての小児に対して接種を推奨しており、フランス、ドイツはより限定的な対象者に対する推奨をしている。

国・地域	基本方針の 発出機関	認可されている ワクチン	5-11歳の小児を対象としたワクチンに関する基本方針
米国	CDC	・ ファイザー	・ 小児に対して接種を推奨。（11月2日）
英国	NHS	・ ファイザー	・ 記載なし。
カナダ	NACI	・ ファイザー	・ 小児に対して接種可能。（11月19日）
フランス	保健省	・ ファイザー	・ 重症化リスクのある小児と免疫不全者と同居している小児に対して接種を推奨※1。（11月30日）
ドイツ	保健省	・ ファイザー	・ 小児が基礎疾患を有する場合や重症化リスクのある者と接触のある場合は接種を推奨し、個人や保護者が接種を希望する場合は接種可能※1。（12月9日）
イスラエル	保健省	・ ファイザー	・ 小児に対して使用を推奨。（11月10日）
国際連合	WHO	・ 特になし	・ 小児の新型コロナワクチン接種政策やプログラムの制定にあたり、各国の疫学、社会的コンテクストに照らして、ワクチン接種の個人と集団の利益を考慮すべき。（11月24日）
EU	EMA	・ ファイザー	・ 諮問機関であるCHMPは、接種の適応年齢を5-11歳まで拡大することを推奨。（11月25日）

※1：フランス、ドイツでは薬事承認はEMAにより行われるため、両国において小児に対する接種は薬事上承認されている。
Source: CDC, NACI, フランス保健省, ドイツ保健省, Israel Ministry of Health, WHO, EMA

今後新たな変異株が出現することも予想しておかなければなりません、それが子どもたちに軽症である保証はありません。

ワクチンの中長期的な副反応を心配されるのであれば新型コロナウイルスに感染した後の長期的な影響についても心配しないといけません。